

和室文化を伝える子ども向けワークショップ —減少しつつある和室に着目して—

秋田研究室（企画） A22AB025 太田汐海

1. はじめに

1-1 企画の背景

近年、和室のある住宅が減少しており子どもが畳文化に触れる機会が少なくなっている。

1-2 企画の目的

和室の魅力を子どもとその保護者世代に伝えるとともに、ワークショップでの体験を通して和の文化に親しみを持つもらうことを目的とする。

1-3 共同組織

(公社)愛知建築士会女性委員会と共に催のもと、企画の検討を進めた。女性委員会は1988年6月に女性部会として設立した。女性建築士が主に集まり、講習会・見学研修・ワークショップなどの企画運営をしている。

2. 企画スケジュールと打ち合わせ

1年間に2回ワークショップを開催した。実施に向けて、企画案や計画・準備を女性委員会と共に対面及びZOOM会議で13回の打ち合わせを行い、段階的に進めた（表1）。

3. 第一回目 WS 「畳のコースターを作ろう！」

3-1 実施概要

開催日：7月5日（土）

午前の部 10:30～12:00(1～3年生対象) 午後の部 13:00～14:30(4～6年生対象)

場所：富士見台会館 和室

3-2 実施内容

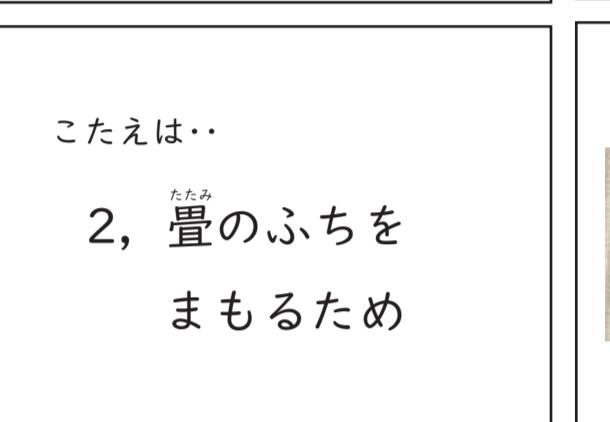
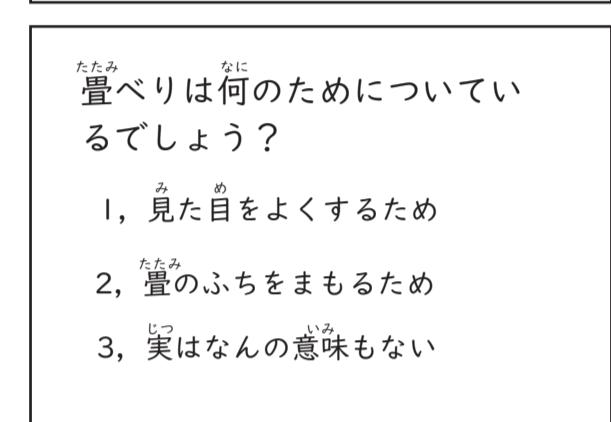
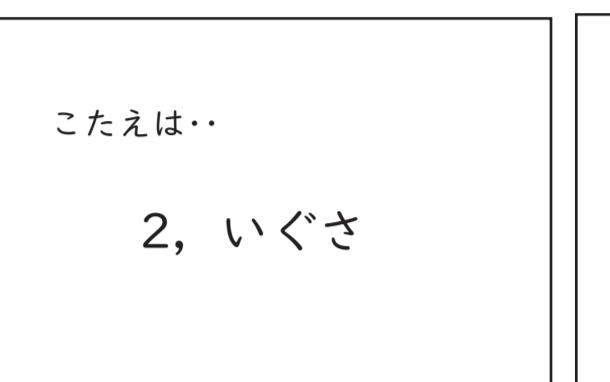
挨拶(5分)→女性委員会による読み聞かせ(10分)→畳クイズ(20分)→畳のコースター作り(40分)→振り返り(5分)→アンケート記入(10分)の90分間構成となっている。また畳作成用機材、製作時に使用する道具、畳縁の種類の写真や畳構造のサンプルを展示了。

3-3 実施準備：取材

畳についての理解を深めるため、覚王山駅付近の「二宮畳店」にて取材を行い当日は展示用として畳一畳を借用した。

3-4 実施準備：作成

- ・畳のコースターの材料（画像1）
- ・チラシ
- ・畳クイズボード（図1）
- ・アンケート



画像1 畳のコースターの材料（上）
畳のコースター（下）

図1 畠クイズボード

3-5 当日の様子・反省点

当日の午後の部は参加者14名、午後の部は9名であった。親子で工作に取り組む様子が見られた（画像2）。反省点として、小学校低学年と高学年では理解度が異なるためクイズ内容を変更すべきであった。

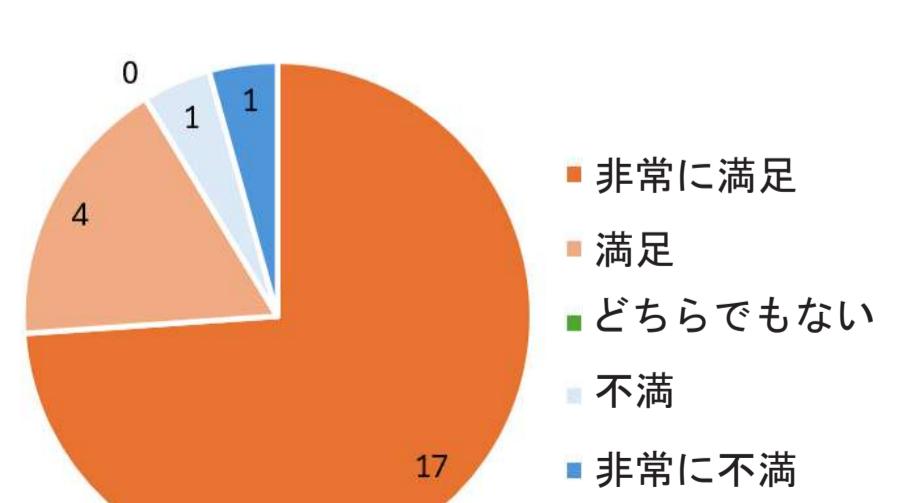


画像2 左から読み聞かせ風景、畠クイズ風景、工作風景、工作風景

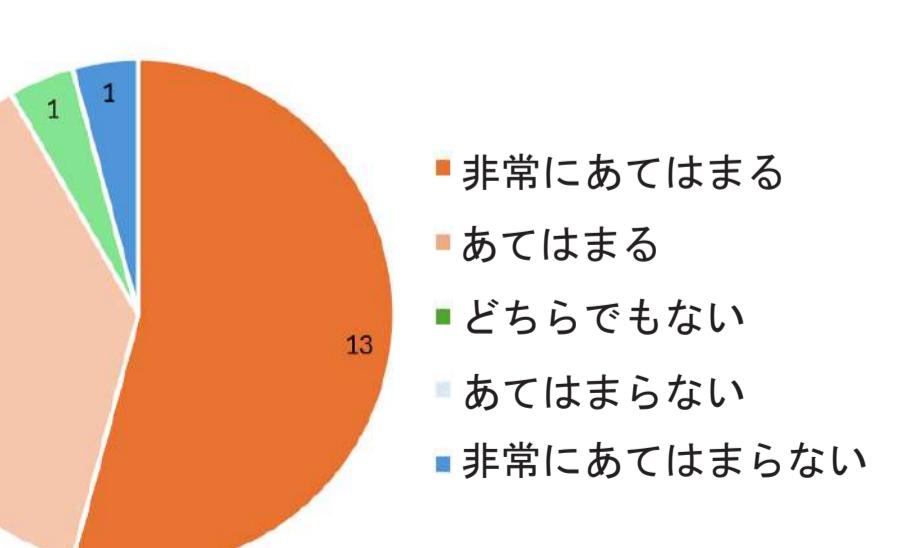
3-6 アンケート結果

「畠に興味を持ったか」という質問に対しについて、90%以上の参加者が非常に満足、満足と回答した（図2）。

【イベントの満足度】



【畠に興味を持ったか】



【自由記入欄】

・「人数や和室の雰囲気も良く楽しかった。」
・「コースターをもう一個作りたい。」

図2 アンケート結果

4. 第二回目 WS 「和室を学ぼう！」

4-1 実施概要

開催日：12月26日（金）

午前の部 10:30～12:00(1～6年生対象) 午後の部 13:00～14:30(1～6年生対象)

場所：東山荘 第一和室

後援：愛知県・名古屋市

4-2 実施内容

挨拶(5分)→絵本の読み聞かせ(10分)→東山荘見学(20分)→お正月飾り作り(40分)
→振り返り(5分)→アンケート記入(10分)の90分間の構成となっている。

4-3 実施準備：実測

東山荘についての理解を深めるため実測を行い、起し絵を作成した。作成した起し絵は、絵本の最終ページにおける飛び出す仕掛けとして使用したほか、参加者へのお土産として起し絵キットも制作した。

4-4 実施準備：作成

- ・絵本「わしつのはなし」(図3)・お正月飾りの材料
- ・起し絵キット
- ・見学ボード
- ・チラシ



図3 絵本「わしつのはなし」

4-5 当日の様子・反省点

当日の午後の部は参加者11名、午後の部は7名であった。当日は子どもたちが工作に熱心に取り組み、クイズにも積極的に参加する様子が見られた(画像3)。反省点として、お正月飾りに使用したい草の束が太かったため小学校低学年の児童には作成がやや難しい様子が見られた。



画像3 左から読み聞かせ風景、見学風景、工作風景、工作風景

4-6 アンケート結果

イベントの満足度について、100%の参加者が非常に満足、満足と回答した(図4)。

【イベントの満足度】

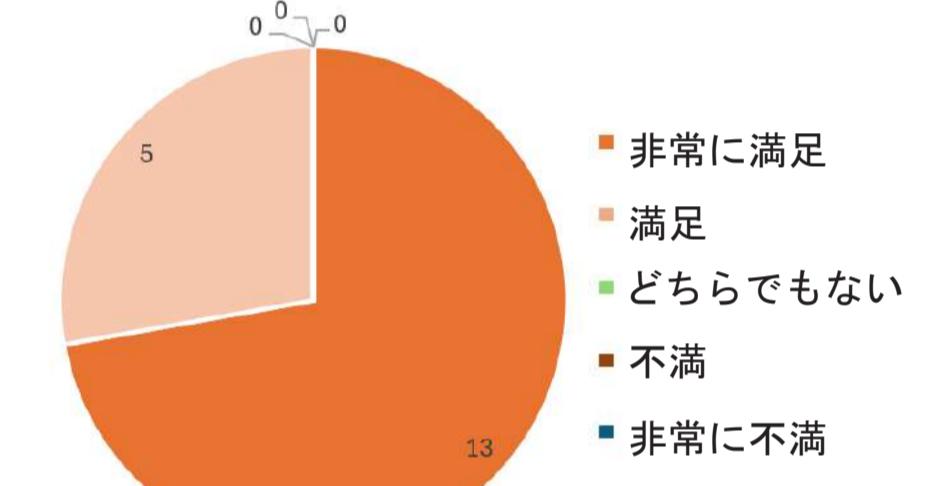
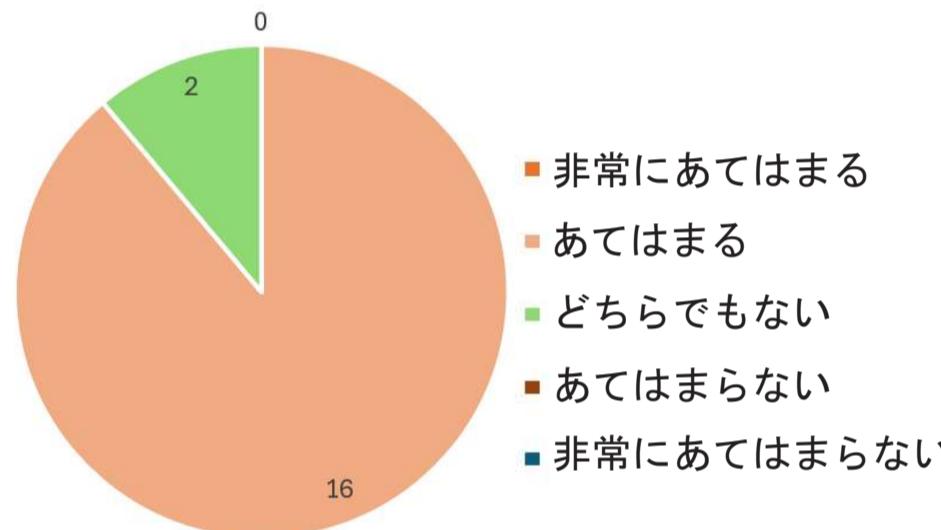


図4 アンケート結果

【和室に興味を持ったか】



【自由記入欄】

・「和室の説明会が子供たちにとって勉強になり楽しかったです」

5. 広報

広報活動として、開催場所周辺の小学校に(公社)愛知建築士会女性委員会の委員を通じて協力を依頼し、許可を得た上でチラシの配布を行った(図5)。応募方法は、Google フォームを活用した。



図5 1回目 WSチラシ(左) 2回目 WSチラシ(右)

6. まとめ

本企画では、二回にわたるワークショップを通して、子どもたちが和室や畳に親しみを持ち、実際に触れながら学ぶ機会を提供することができた。工作やクイズ、見学などの体験的な活動は子どもたちの興味を引き出し、和の文化に対する理解の促進につながったと考えられる。

7. 参考文献

西沢文隆：建築と庭 西沢文隆「実測図」集，建築資料研究者，1997，64-65頁